

世田谷区における専門職向け ACP 普及啓発活動「ガヤガヤ会議」

神野 真実¹ / 樋口 久仁子¹ / 村上 典由¹ / 尾山 直子² / 五味 一英³

1 株式会社メディヴァ / 2 医療法人社団プラタナス 桜新町ナースケア・ステーション / 3 医療法人社団プラタナス 桜新町アーバンクリニック

背景

人生の最終段階における医療・ケアに関する意識調査(厚生労働省・令和4年度)によれば、医師、看護師で、人生会議について「よく知っている」割合は、6年前に比べ2割以上上昇している。一方、人生の最終段階における医療・ケアの充実のためには、「医療・介護従事者への教育・研修」を求める声が過半数を占め、「人生の最終段階について話し合った内容についての、患者・利用者本人や家族等、医療・ケアチームとの共有の仕方」についても6~7割が重要視している。

実施内容

企画にあたっては、桜新町アーバンクリニックの医師・看護師ら協力のもと、医師による ACP 基礎講座と、参加者それぞれが気軽に ACP について語り合えるよう 2 つのグループワークを中心に構成。できる限り参加ハードルが上がらないよう、「ガヤガヤ会議」というネーミングや、参加者募集のチラシについても留意した。当日のグループはいずれも近隣事業所、多職種混合で6名程度とし、医師・看護師を含むファシリテーターがついた。

タイムライン ※実績

18:30 - 18:45	開催挨拶・概要説明	20:00 - 20:10	休憩・席替え
18:45 - 19:00	ACP 基礎講座(五味医師)	20:10 - 20:30	ワーク2:話してみよう 最近あった ACP ②
19:00 - 19:30	ワーク1:あなたはどこを見る?視点共有しよう!	20:30 - 21:00	発表とまとめ
19:30 - 20:00	ワーク2:話してみよう 最近あった ACP ①		スピノフ企画:おみくじ形式の人生会議ツール「おじくじ」

活動

弊社は令和2年より在宅医療・介護連携推進事業の一環で世田谷区の ACP 普及啓発に5年に渡り従事してきた。これまで、専門職向けの ACP に関わる講習会は、事業所、自治体、さまざまな単位で開催されてきたが、事業所・職種を超えた地域での実践に至りにくいとの声も聞かれていた。そこで、世田谷地域では、一方向的な講義や、事例共有のようなかしまった形ではなく、地域の多職種と ACP について力まずに語り合える場として、「ガヤガヤ会議」を企画・実施した。



参加ハードルを下げるべく、タイトルや内容に留意しつつ、地域事業所や管理者会、連絡会などに FAX をお送りし、必要に応じて電話等々でのお誘いを行った。

講義

ACP 基礎講座

15 min

病気をしたとき、いよいよのときだけに限らず、元気なときから「価値観のかけら」を集めておくことの重要性や、人生に伴走する多職種たちが、受け取った「かけら」をつないでいくことで、本人の望む生き方に近づくことができる実践例を交えて発表いただいた。



参加者の声

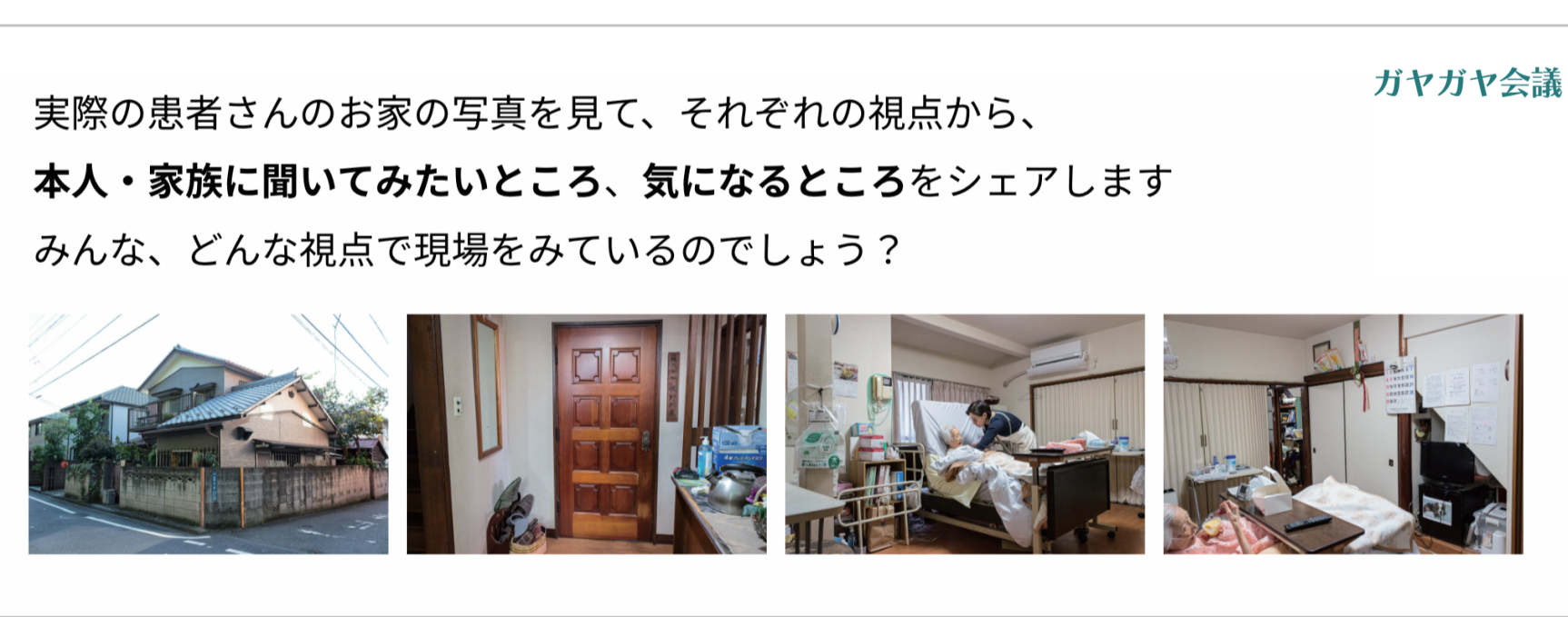
- ・今後はケアの中で意識しながらピースを組み立てていけるように ACP に取り組んでいきたいと思っています。
- ・私自身が訪問でかけらを集めているが、それだけではなく従業員同士で、事業所間でどう共有するか意識しなければならないことがわかった。

ワーク1

あなたはどこを見る?視点を共有しよう

20 min

ある患者の自宅での様子を納めた写真(玄関・寝室・食事中等)を見て、それぞれの視点から気になることを共有した。各人の専門性や、経験を通じた見立てで盛り上がったところで、実際の患者の様子について種明かしを行い、多職種チームでご本人の思いについて考えることの可能性を体感した。



参加者の声

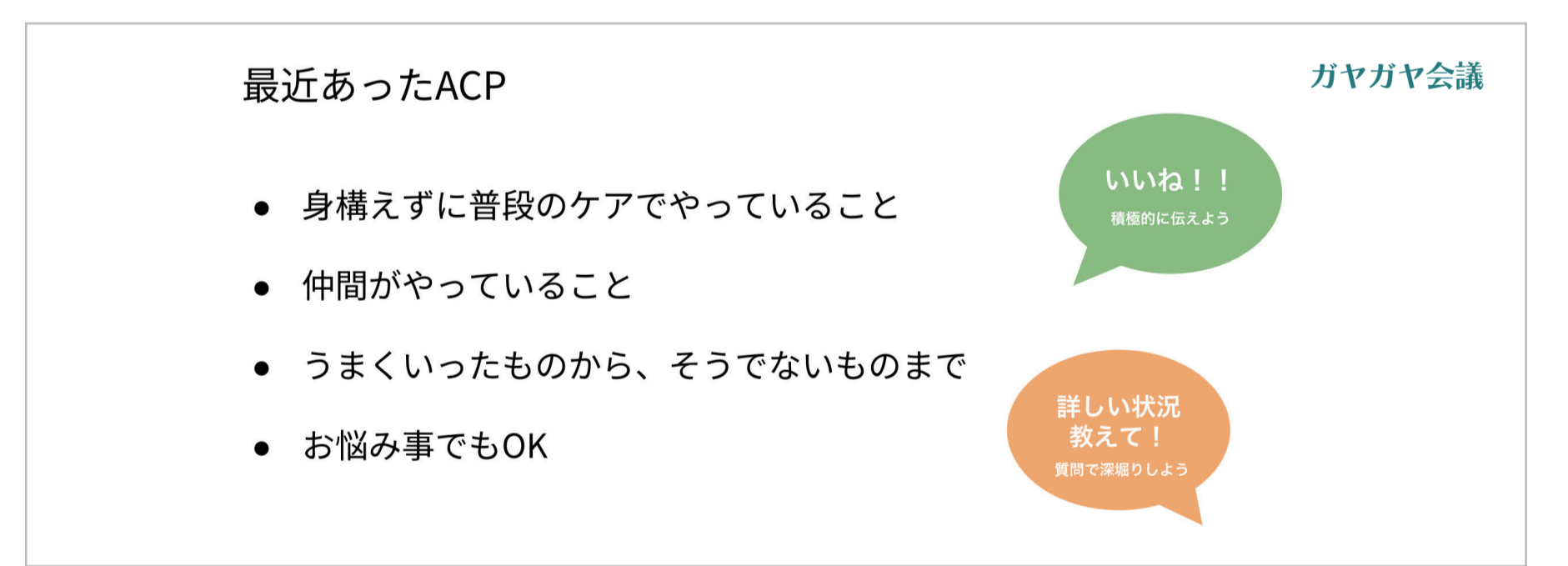
- ・家の中にはヒントがいっぱいある。多職種さんの視点が学びになった。
- ・福祉用具専門相談員の方でも、用具のことだけではなく、個人のことを聞こうとされている方のことを知ってもっと情報共有しようと思いました。

ワーク2

話してみよう、最近あった ACP

30 min

自身や同僚が実践する大小問わない ACP の取り組みについて語り合った。普段、何気なくやっていることが他者から称賛されたり、参考にされたりする様子が見られた。同時に、それぞれが直面している難しさを語り合い、共感する様子から、ACP の仲間づくりに寄与する時間となった。

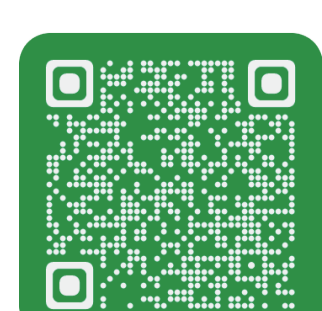


参加者の声

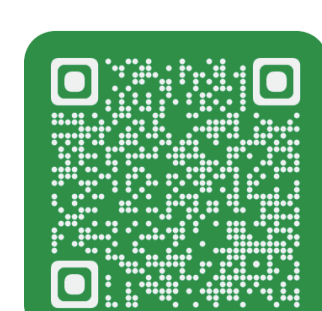
- ・実践したことのない ACP、実践してみたい ACP を知ることができて、今後の訪問に活かしたいと思います。
- ・施設と個人宅で実施する ACP が違い、課題がある。人を預かっている施設という以上、本人の希望とミスマッチが起こることがあり、その思いを共有できた。

結果

地域の医療介護専門職など 43 名が参加し、うち約 3 割が看護師、約 3 割がケアマネジャー、ほか社会福祉士、医師、保健師と続いた。会の評価について、10 割が非常に良かった / 良かったと答え、7.5 割が全てのワークが学びになったと答えた。「家の中にはヒントがいっぱいある。多職種の視点が学びになった。」「色々な ACP の形があることを知った。今後の関わりの中で使いたい。」などの感想を得た。今後も活動を通じ、ACP の文化としての定着を目指したい。



→ 世田谷区 在宅療養・ACP ガイドブック「LIFE これからのこと」ダウンロードページ
「ガヤガヤ会議」使用スライド(抜粋/無断利用はお控えください)→



日本在宅医療連合学会 COI 開示：
開示すべき COI 関係にある企業などはありません。